



関西学院大学リポジトリ

Kwansei Gakuin University Repository

八木康幸教授 略歴と主な業績

雑誌名	関西学院史学
号	46
ページ	i - v
発行年	2019-03-20
URL	http://hdl.handle.net/10236/00027610

八木康幸教授 略歴と主な業績

略歴

- | | |
|-----------------|------------------------------------|
| 一九七三年三月 | 関西学院大学文学部史学科（地理学専修）卒業 |
| 一九七五年三月 | 関西学院大学大学院文学研究科修士課程（西洋史学専攻）修了 |
| 一九七八年三月 | 関西学院大学大学院文学研究科博士課程（西洋史学専攻）単位取得満期退学 |
| 一九七五年四月 | 大阪府立布施工業高等学校全日制課程教諭（社会科） |
| 一九七八年四月 | 関西学院大学文学部助手 |
| 一九八〇年四月 | 関西学院大学文学部専任講師 |
| 一九八二年四月 | 関西学院大学文学部助教授 |
| 一九八八年四月 | 関西学院大学文学部教授 |
| 一九九〇年四月 | 関西学院大学大学院文学研究科博士課程前期課程指導教授 |
| 一九九八年四月 | 関西学院大学大学院文学研究科博士課程後期課程指導教授 |
| 二〇〇七年四月～二〇〇九年三月 | 関西学院大学文学部長・大学院文学研究科委員長 |
| 二〇一九年三月 | 関西学院大学文学部教授を定年退職 |

二〇〇〇年一月 博士（地理学）の学位を取得（関西学院大学）

所属学会

日本民俗学会、人文地理学会、歴史地理学会、民俗芸能学会、現代民俗学会

主な業績

〔著書〕

『民俗村落の空間構造』

岩田書院、一九九八年三月

〔論文〕（分担執筆を含む）

淡路島中部の墓制

『地域文化』二、一九七五年二月

小地域における墓制分布について―淡路島灘地区の事例報告と分析―

蛭沼寿雄編『本位田重美先生定年記念論文集 地域と文化』本位田重美先生定年記念事業会、一九七七年三月

メラナウ族とサゴビスケット―サラワク覚え書き―

『関西学院史学』一九、一九七八年三月

淡路島中部の墓制（再録）

最上孝敬編『葬送墓制研究集成 第四巻 墓の習俗』名著出版、一九七九年四月

五島農村のムラ構成と変化―福江島大川原の場合―

『人文論究』三〇―四、一九八一年六月

村境の象徴論的意味

『人文論究』三四―三、一九八四年二月

江戸時代の祖先祭祀（第七―十一章）

田中久夫編『祖先祭祀の歴史と民俗』弘文堂、一九八六年三月

近江湖南村落における宮座と象徴空間

『人文地理』第三八―二、一九八六年四月

村落空間論の諸相―象徴的空間を中心にして―

『関西学院史学』二二、一九八八年三月

Mura-Zukai : The Japanese Village Boundary and its Symbolic Interpretation

Asian Folklore Studies, 47-1, 1988

村落墓地の規模について―淡路島を例として―

浮田典良編『日本の農山漁村とその変容―歴史地理学的・社会地理学的考察―』大明堂、一九八九年六月

文化地理学と日本民俗学

大島襄二・浮田典良・佐々木高明編『文化地理学』古今書院、一九八九年一月

里の世界

鳥越皓之編『民俗学を学ぶ人のために』世界思想社、一九八九年一月

葬式道・御旅道―村の道の空間論ノート―

『関西学院史学』二三、一九九〇年三月

町おこしと民俗学―民俗再帰的状况とフォークロリズム―

御影史学研究會編『民俗の歴史的世界』岩田書院、一九九四年一月

ふるさとの太鼓―長崎県における郷土芸能の創出と地域文化のゆくえ―

『人文地理』四六―六、一九九四年二月

「地域伝統芸能」の現在―全国フェスティバルの現場から―

『比較日本文化研究』二、一九九五年二月

雨乞い竜の再生

浮田典良編『地域文化を生きる』大明堂、一九九七年六月

郷土芸能としての和太鼓

『たいころじい』一五、一九九七年六月

祭りと踊りの地域文化―地方博覧会とフォークロリズム―

宮田登編『現代民俗学の視点 第三卷 民俗の思想』朝倉書店、一九九八年四月

民俗学と地理学

福田アジオ・小松和彦編『講座日本の民俗学 第一卷 民俗学の方法』雄山閣出版、一九九八年一月

ふるさとのけしき―西海のねぶた―

鳥越皓之編『講座人間と環境 第三卷 景観の創造―民俗学からのアプローチ―』昭和堂、一九九九年九月
現代民俗学の課題と民俗芸能 『人文論究』五〇―二／三、二〇〇〇年十二月

村境の象徴論的意味（再録） 小松和彦編『怪異の民俗学 第八卷 境界』河出書房新社、二〇〇一年六月

フェイクロアとフォークロリズムについての覚え書き―アメリカ民俗学における議論を中心にして―

『日本民俗学』二三六、二〇〇三年一月

パブリック・フォークロアと「地域伝統芸能」

『関西学院史学』三三、二〇〇六年三月

パブリック・フォークロアと「地域伝統芸能」（再録）

鹿谷勲・長谷川嘉和・樋口昭編『民俗文化財 保護行政の現場から』岩田書院、二〇〇七年一〇月
近代における民俗文化の発見とその知識、情報の普及過程―男鹿のナマハゲを事例として―

『関西学院史学』三六、二〇〇九年三月

なもみはげたか―折口信夫、柳田国男とナマハゲに関するノート―

『人文論究』六〇―一、二〇一〇年五月

民俗文化のゆくえ

中俣均編『シリーズ人文地理学 第七卷 空間の文化地理』朝倉書店、二〇一一年七月

柳田国男とナマハゲに関する覚え書き―「なもみはげたか」補論―

『人文論究』六七―三、二〇一七年十二月

节祭和舞蹈の地域文化―地方博覧会和民俗主義―

（「祭り」と踊りの地域文化―地方博覧会とフォークロリズム―）を再録、周星訳

周星・王霄冰主編『現代民俗学的視野与方向：民俗主義・本真性・公共民俗学・日常生活』上

北京师范大学中国社会管理研究院／社会学院、二〇一八年四月

关于伪民俗和民俗主义的备忘录——以美国民俗学的讨论为中心——（「フェイクロアとフォークロリズムについての覚え書き——アメリカ民俗学における議論を中心にして——」を再録、周星訳）

周星・王霄冰主編『现代民俗学的视野与方向——民俗主义・本真性・公共民俗学・日常生活 下』

北京师范大学中国社会管理研究院／社会学院、二〇一八年四月
ナマハゲと学習雑誌——一九五〇年代におけるナマハゲの扱いをめぐる——『関西学院史学』四六、二〇一九年三月